

協議会名: おいらせ町地域公共交通会議

評価対象事業名: 地域内フィーダー系統確保維持費国庫補助金

①補助対象事業者等	②事業概要	③前回(2事業年度前)(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点(特記事項を含む)
岩手県北自動車株式会社 社南部支社	【運行系統名】 ①北線 ②市街地循環線 【運行区間】 ①向山駅西口～イオンモール下田～おいらせ病院前 ①'石田温泉病院前～イオンモール下田～向山駅西口 ②イオンモール下田～下田駅前・百石中央～イオンモール下田 ②'イオンモール下田～下田駅前～イオンモール下田	【前回(2事業年度前)の評価結果】 ○事業実施の適切性⇒「A」 ○目標・効果達成状況⇒「B」 鉄道や路線バスの接続について、各ダイヤ改正等を踏まえ、運行時刻等の見直しを検討する。 【評価結果の反映状況】 運行事業者と定期的な運行状況の情報交換をしながら、鉄道や路線バスの例年の運行ダイヤの改正情報や運行ルートの変更情報をもとに、一部運行ルートの見直し及び鉄道ダイヤとの接続に配慮したバスの運行ダイヤの見直しを令和6年1月に行った。	A 事業が計画に位置付けられたとおり、適切に実施された。	A 【目標値】収支率25%以上 【実績値】収支率26.0% 【達成率】104.0% 継続的な周知PR活動により、利用者が大きくデマンド交通に流れることなく、運送収入も維持することができたため、収支率も目標を下回ることはなかった。	鉄道や路線バスの定期的な運行ダイヤの改正及び交通事情などに応じて、交通の利便向上及び安全運行を確保するため、必要な運行の見直しを継続して実施していく。
				A 【目標値】不満割合15%以下 【実績値】不満割合14.6% 【達成率】102.7% 令和4年度の地域公共交通の再編による新たな交通体系が浸透し、町民の公共交通に対する意識が満足傾向に大幅にシフトし、これまでの不満感が大きく解消された。	これまで実施していた、町の総合計画等に係る町民アンケートに代わり、直接的に利用者を対象としたアンケート調査を実施し、利用者ニーズをしっかりと把握していくことに努める。
三八五交通株式会社	【運行系統名】 おいらバス 【運行区間】 おいらせ町全域	【前回(2事業年度前)の評価結果】 ○事業実施の適切性⇒「A」 ○目標・効果達成状況⇒「C」 定時定路線のバスとは違う利用方法であることや住民への周知不足から、当初想定よりも利用者数が少ない状況である。利用の多い施設等と連携を図り、利用促進に向けたPRを行っていく。 【評価結果の反映状況】 ガイドブック発行による新たなサービスの広報周知、毎月の広報誌への利用案内掲載及びいきいきサロンなど高齢者が集まる集会での利用ガイダンスなどを継続して実施することにより、利用客が着実に増加した。	A 事業が計画に位置付けられたとおり、適切に実施された。	B 【目標値】収支率25%以上 【実績値】収支率21.5% 【達成率】86.0% 物価高騰に伴う燃料費や人件費による運行コストが増加していることあるが、依然として予約受付センターによる配車事務経費が影響しているものと考えられる。	引き続き、利用促進を図るためにガイドブック配布などの周知PR活動を継続していくとともに、利便性の向上を図るため、利用の多い主要施設への直通電話設備の設置やAIデマンドシステムの改善などに取り組んでいく。
				A 【目標値】不満割合15%以下 【実績値】不満割合14.6% 【達成率】102.7% 令和4年度の地域公共交通の再編による新たな交通体系が浸透し、町民の公共交通に対する意識が満足傾向に大幅にシフトし、これまでの不満感が大きく解消された。	これまで実施していた、町の総合計画等に係る町民アンケートに代わり、直接的に利用者を対象としたアンケート調査を実施し、利用者ニーズをしっかりと把握していくことに努める。
富岡 良彦	【運行系統名】 おいらバス 【運行区間】 おいらせ町全域	【前回(2事業年度前)の評価結果】 ○事業実施の適切性⇒「A」 ○目標・効果達成状況⇒「C」 定時定路線のバスとは違う利用方法であることや住民への周知不足から、当初想定よりも利用者数が少ない状況である。利用の多い施設等と連携を図り、利用促進に向けたPRを行っていく。 【評価結果の反映状況】 ガイドブック発行による新たなサービスの広報周知、毎月の広報誌への利用案内掲載及びいきいきサロンなど高齢者が集まる集会での利用ガイダンスなどを継続して実施することにより、利用客が着実に増加した。	A 事業が計画に位置付けられたとおり、適切に実施された。	A 【目標値】収支率25%以上 【実績値】収支率45.5% 【達成率】182.0% 広報誌などでの継続的な利用促進対策が図られ、利用者数も順調に推移し、運送収入も増加したため、収支率が向上したと考えられる。	引き続き、利用促進を図るためにガイドブック配布などの周知PR活動を継続していくとともに、利便性の向上を図るため、利用の多い主要施設への直通電話設備の設置やAIデマンドシステムの改善などに取り組んでいく。
				A 【目標値】不満割合15%以下 【実績値】不満割合14.6% 【達成率】102.7% 令和4年度の地域公共交通の再編による新たな交通体系が浸透し、町民の公共交通に対する意識が満足傾向に大幅にシフトし、これまでの不満感が大きく解消された。	これまで実施していた、町の総合計画等に係る町民アンケートに代わり、直接的に利用者を対象としたアンケート調査を実施し、利用者ニーズをしっかりと把握していくことに努める。
有限会社円徳タクシー	【運行系統名】 おいらバス 【運行区間】 おいらせ町全域	【前回(2事業年度前)の評価結果】 ○事業実施の適切性⇒「A」 ○目標・効果達成状況⇒「C」 定時定路線のバスとは違う利用方法であることや住民への周知不足から、当初想定よりも利用者数が少ない状況である。利用の多い施設等と連携を図り、利用促進に向けたPRを行っていく。 【評価結果の反映状況】 ガイドブック発行による新たなサービスの広報周知、毎月の広報誌への利用案内掲載及びいきいきサロンなど高齢者が集まる集会での利用ガイダンスなどを継続して実施することにより、利用客が着実に増加した。	A 事業が計画に位置付けられたとおり、適切に実施された。	A 【目標値】収支率25%以上 【実績値】収支率43.6% 【達成率】174.4% 広報誌などでの継続的な利用促進対策が図られ、利用者数も順調に推移し、運送収入も増加したため、収支率が向上したと考えられる。	引き続き、利用促進を図るためにガイドブック配布などの周知PR活動を継続していくとともに、利便性の向上を図るため、利用の多い主要施設への直通電話設備の設置やAIデマンドシステムの改善などに取り組んでいく。
				A 【目標値】不満割合15%以下 【実績値】不満割合14.6% 【達成率】102.7% 令和4年度の地域公共交通の再編による新たな交通体系が浸透し、町民の公共交通に対する意識が満足傾向に大幅にシフトし、これまでの不満感が大きく解消された。	これまで実施していた、町の総合計画等に係る町民アンケートに代わり、直接的に利用者を対象としたアンケート調査を実施し、利用者ニーズをしっかりと把握していくことに努める。

※枠の大きさの変更は可能です。